

自由工房

子どもたちの粘土開放日

友の会より寄贈された土練機と1t程の水粘土を使用し、少量での物作りとは違った感覚で粘土遊びを体験する会を実施した。親子での参加を基本とし、午前と午後の2つの時間帯を設けた。技術的指導はなし。

期 間 = 毎月第4日曜日を基本とし本年度は計10回実施した。

講 師 = 石上和弘 (彫刻家)・持塚三樹

場 所 = 当館実技室

参加者数 = 2,558名



ワークショップ

夏休み子どもワークショップ

「形で作ろう 鉄の音色」

概要：金沢健一氏の作品《音のかけら》を体験し、参加者がみずからの《音のかけら》作品を制作するワークショップ (中学生以上の部は、体験のみ)。

小学校低学年 + 保護者の部《音のかけら》を作ろう 28名

7月30日～31日 (10:15～18:15)

小学校高学年の部《音のかけら》を作ろう 26名

8月1日～2日 (10:15～18:15)

中学生以上の部 + 博物館実習生《音のかけら》で遊ぼう 3名 + 18名 = 21名

8月3日 (10:15～18:15)

講師 = 金沢健一 (彫刻家)

場所 = 当館実技室

内 容

- 1 《音のかけら2》(当館蔵)、《音のかけら1》(当館寄託)、《音のかけら6》(当館寄託)、《振動態》を用いた金沢健一氏のパフォーマンスを見る。叩く物、叩く場所、叩き方によって無限の音を鉄から取り出すことができる。
- 2 金沢氏から《音のかけら》についての説明を聞く。なぜ、こういう作品を制作したのか、鉄と音の関係、鉄と人の歴史など、様々な奥深い話。
- 3 同様に《振動態》の説明を聞く。一枚の鉄板をゴムで擦ると、大きな共鳴音が出る。その上に石粉をまくと、擦り方によって、様々な紋様を描き出す。鉄から音が出る振動の仕組みを視覚的に把握できる実験でもある(図1)。
- 4 参加者が《音のかけら》を体験してみる。まずは、手で叩いたり、かけらを持ち上げてみたりして、鉄の感触を確かめる(図2)。そして様々な道具を選んで、好きなように叩き、自分の気に入った音を見つける。叩く、こする、投げる、撫ぜる...やり方は無限だ。
- 5 参加者がみんなの前で、音を発表する。緊張しながら、たった一人でパフォーマンスする。その後、親子、兄弟で、あるいは他人どうしで行い、音による会話をする。ときおり金沢氏が割って入り、即興のセッションとなる(図3)。金沢氏は、ヒントを与えることはあっても、演奏の指導などはしない。表現することは、各自の自由である。《音のかけら》は、誰にでも容易に表現する喜びを教えてくれる作品である。ただ、金沢氏は、子ども達が自分が出した音を最